

令和2年度 ふるさと教育推進事業

# 松江教育事務所管内

## 特色あるふるさと教育事例

学校名	松江市立乃木小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	ふるさと教育の視点
6	国語 (総合)	町の幸福論 ～コミュニティデザインを考える～ (島根の魅力を再発見)	ふるさとの自然・歴史・生活は、人々の工夫や努力、協力によって支えられ、守られていることを理解し、ふるさとを大切にすることを育てる。

### 1 特色ある取組の概要

今年度は新型コロナウイルスの影響で、当初計画していた修学旅行の行先（広島）へ行くことができず、島根県内の観光地を巡ることになった。そこで、当初計画していたふるさと教育の単元を大幅に変更することにした。総合的な学習の時間と国語を合科し、まず総合的な学習の時間を使って島根の観光地について調べ、国語で島根の町づくりについての良さや課題をまとめた。その後修学旅行へ出掛け、「石見銀山」「アクアス」「玉造温泉」「出雲大社」「神門通り」の現状について確かめた。



帰校後、「東京の大学生に島根の魅力をプレゼンしよう」と修学旅行の班ごとに、タブレット端末でプレゼンを作り、各学級でコンペを行った。学級代表になった班はzoomで大学生とつながり、リモートでプレゼンを行い修学旅行のまとめとした。

### 2 乃木小学校のふるさと教育のねらいを達成するための授業（活動）のポイント（工夫）

「島根の魅力を再発見」と単元を設定したことで、修学旅行に目的を持たせた。また国語で街づくりについて学んだこと、東京の大学生に班ごとにプレゼンを作るための情報収集だと意識することで自然と「自然・歴史・生活」について目を向け、町おこしのために思いをもって活動している人々に気付くことができた。

### 3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）

ふるさとの良さに改めて気付いて、これからもふるさとを大切にしたいと考える子どもの姿が多く見られた。また、東京の大学生から、プレゼンの分かりやすさを褒めてもらったり、「島根に行ったことがないから行ってみたい」と声をかけてもらったりしたことが、「もっと島根のよさを他の県の人に知ってもらいたい」という思いにつながった。

また、学校に入ってすぐにタブレット端末を班ごとに操作しスライドショーができるように準備したため、情報処理の仕方や発信するときの情報活用についてのルールやモラルなど、一人一人しっかり身についた。



## 特色あるふるさと教育事例

学校名	松江市立秋鹿小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	ふるさと教育の視点
4	総合的な学習の時間	秋鹿の特産物を調べよう ＜秋鹿ごぼうを育てよう＞	秋鹿のごぼうを守り、栽培しておられる清水秋廣さんの仕事の工夫や努力、ふるさとへの思いを知り、これからも守り伝えていこうという気持ちをもつ。

### 1 特色ある取組の概要

- 秋鹿のごぼうについて調べよう。
- 秋鹿ごぼうについて清水さんから教わろう。
- 秋鹿ごぼう作りの見学や体験をしよう。（種まき, 草取り, 収穫）
- 秋鹿ごぼうを使った料理の仕方を教わろう。「秋鹿ごぼう料理講習会」
- 秋鹿ごぼう新聞を作って地域に発信しよう。
- 秋鹿ごぼう作りについてわかったことや気づいたことを発表しよう。
- お世話になった方々に感謝の気持ちを表そう。「感謝の会」

### 2 各校のふるさと教育のねらいを達成するための授業（活動）のポイント（工夫）

- 疑問に思ったことや聞きたいことを明確にし、地域で秋鹿ごぼう作りをしておられる方にお話をさせていただく。
- 秋鹿ごぼう作りの仕事の工夫や努力などを実感し、理解を深める。
- 秋鹿ごぼう作りについて学習したり、体験したりして学んだことを新聞にまとめる。
- お世話になった方々を招いて「感謝の会」で、秋鹿ごぼう作りについて学習したり、体験したりして学んだふるさとへの思いや感謝の気持ちを発表する。



6月3日種まき



7月16日草取り



1月26日収穫



2月9日感謝の会

### 3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）

自分たちが生まれ育った秋鹿地域には守っていくべきすばらしい特産物がたくさんあることを再確認することができた。また、その仕事に携わっておられる方々の苦労やふるさとへの思い、これからも守っていこうと取り組んでおられる活動を知り、自分たちもふるさとを大切にしていきたいという思いを強く抱くことができた。

秋鹿ごぼうの学習を終えて、他の特産物や地元の伝統行事などについても、深く知ろうという子どもたちの意欲が高まっている。



## 特色あるふるさと教育事例

学校名	松江市立出雲郷小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	ふるさと教育の視点
3	総合的な学習の時間	干し柿を作ろう	地域の特産物の一つである、干し柿について調べたり干し柿づくりを体験したりし、友達と協力してまとめたり発表したりして、地域の良さを見つけ伝えていこうとする気持ちをもつ。
<p><b>1 特色ある取組の概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・干し柿について事前学習、見学の計画を立てる。</li> <li>・11月2日（月）干し柿農家見学（上意東畑地区）を行う。</li> <li>・11月12日（木）、13日（金）から干し柿づくりを行う。</li> <li>・2学期に学習のまとめとして、干し柿作りについて新聞にまとめた。</li> </ul> <p><b>2 各校のふるさと教育のねらいを達成するための授業（活動）のポイント（工夫）</b></p> <p>(1) 干し柿農家への見学 地域の干し柿農家の方に、実際に干し柿作りの様子や、柿小屋などを見学させていただいたり、畑地区の干し柿の歴史などのお話を聞かせていただいたりすることができた。渋柿を食べる体験をすることにより、渋い柿が自然の力で甘くおいしい柿になることに驚きをもって調べることができた。干し柿という地域の特産品について、学習が深められただけでなく、それに携わる人との関わりや努力・工夫を感じることができた。</p> <p>(2) 干し柿づくり体験 また、干し柿作りを実際に体験し、友達と協力して、干し柿作りに挑戦する活動を設定した。柿の皮むきやひもへの付け方など、干し柿作りの大変さを知ることができた。干した柿は実際に1ヶ月後に収穫し、それぞれが持ち帰り家族と一緒に味わうことができた。</p> <p>(3) 学習の成果の発表 2学期には、干し柿について見学・体験したことや調べたことを新聞にまとめた。</p> <p><b>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）</b></p> <p>自分から興味をもって調べたり、インタビューしたりする姿が見られた。見学後の感想には、「自分たちの住んでいるところにこんなに有名なものがあるなんてすごい」という文章が多く見られた。干し柿の学習を通して、地域のものや人への愛着が育ってきていると考える。</p>			



## 特色あるふるさと教育事例

学校名	松江市立鹿島中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	ふるさと教育の視点
1	総合的な学習の時間	ふるさと鹿島の再発見・地域を知る	ふるさとへの理解を深め、そのよさを大切に思い、地域の一員として活動する態度を養う。

### 1 特色ある取組の概要

- ・調べたいテーマに沿って、鹿島町について本などで資料を集める。
- ・鹿島町の実際の場所に行き、写真を撮ったり地域の方にインタビューをしたりする。
- ・集めた資料をもとに紹介したい鹿島町について新聞にまとめる。

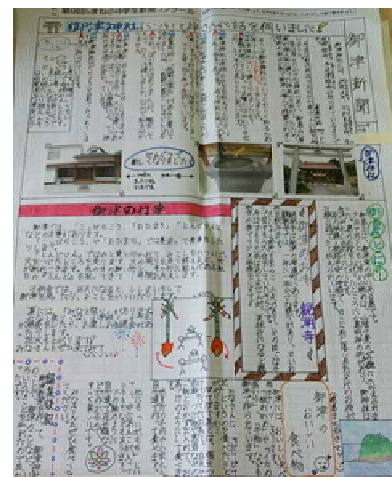
### 2 各校のふるさと教育のねらいを達成するための授業（活動）のポイント（工夫）

- ・鹿島の産業や歴史を調べ、2年時には修学旅行の自主研修において、他地域の方にパンフレットを使って紹介する。それに向けて、ふるさとのことをあらためて学習する。
- ・実際に産業や歴史に携わる地域の方から、町おこしに対する熱意や歴史について直接聞き、さらにふるさとを大切にする気持ちを育てる。
- ・実際に地域に出かけて取材をすることで、あらためて鹿島町の魅力を考えるきっかけを作る。



### 3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）

- ・産業で町おこしをされる方の話を直接聞いたり、地元食材を使って実際に作られた商品を間近で見たりすることで、あらためて地元の産業や地元食材に興味をもった。
- ・神社や歴史資料館で歴史について話を聞くことで、今まで知らなかった鹿島町の歴史について知ることができ、鹿島町の魅力について考えることができた。
- ・新聞にまとめることで、ふるさと鹿島の良さを発信しようとする気持ちが高まった。



## 特色あるふるさと教育事例

学校名	松江市立美保関中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	ふるさと教育の視点
2・3	総合的な学習の時間	ふるさとに学ぼう	<input type="checkbox"/> ふるさとを知る <input type="checkbox"/> ふるさとを愛する <input type="checkbox"/> ふるさとに貢献する

### 1 特色ある取組の概要

中学2・3年生の総合的な学習を使って週1～2時間、ふるさとについて調べたりふるさとの伝統文化に実際に地域の優れた人材に教えてもらったりする。具体的には「関乃五本松節」の唄、三味線、太鼓のコース、琴、銭太鼓の演奏、ボートの6コースを設け活動している。



### 2 各校のふるさと教育の

#### 2 ねらいを達成するための授業（活動）のポイント（工夫）

ポスターセッションにより、3年生が2年生にむけてコースの内容を説明して魅力についてわかりやすく説明することによって2年生はどんな内容なのか良く知ることができ、コース選択のよい機会となった。

美保関町のお祭りに実演したり、競技会に参加したりすることを目標にすることによって生徒の意欲を高めてきたが、今年度は、発表の場がなくなり、校内の文化祭のステージで発表を行った。

例年は見ることができない演奏や発表を互いに見合うことでふるさとへの思いが高まった。

#### 3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）

美保関町の誇れる伝統芸能やスポーツを地域に住む各専門分野の講師の方から直接学ぶことで、最初のころは難しさに自信をなくしていた生徒もいたが、だんだんと慣れていき、技術だけでなく、伝統芸能やスポーツの楽しさ、面白さをだんだんと実感できるようになった。そして、地域で守り継承していこうという意識が高まるとともに、地域に指導してくださる人材が、たくさん存在することにも気付くことができた。ステージで実演したりする生徒の姿はとても生き生きしている。意識調査でも、本校の生徒の「地域についての関心」が高く、講師の方の地域への熱い思いに触れながら学んでいるからであろう。



## 特色あるふるさと教育事例

学校名	安来市立能義小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	ふるさと教育の視点
2	生活科	まちたんけん ～のきの「すごい!」をしょうかいする PRビデオをつくろう～	地域の人、もの、ことに接することを通して、地域について知るとともに、地域に対する親しみと愛着をもち、地域を大切に思う気持ちを育てる。

### 1 特色ある取組の概要

- 1学期の町探検では、学校から歩いて行ける地域を回り、地域の春から夏にかけての様子を感じ、どこにどんなものがあるかを発見し、気づきをワークシートにまとめ、交流し合う活動を行った。
- 2学期の町探検では、地域の人で、知識や技術をもっておられる人を「名人」と捉え、名人のもとへインタビューに出かけ、「見る」「聞く」「体験」を通して、名人のひみつを探る活動を行った
- 「能義の『すごい!』を紹介するPRビデオをつくろう」と、単元を貫く学習課題を設定し、町探検で学んだことを、グループごとに紹介方法を考え、ニュース形式にしたり、劇にしたりしてまとめた。実際に、PRビデオを撮り、地域のケーブルテレビで放映した。



### 2 各校のふるさと教育のねらいを達成するための授業（活動）のポイント（工夫）

- 2学期の取組では、1学期の町探検やこれまでの生活経験を振り返りながら、さらに知りたい、調べたいと子どもの興味・関心をもった地域の人、もの、ことを取り上げることで、主体的に追究できる活動になるようにした。
- それぞれの名人のもとに出かける際は、事前に、子どもたちに「聞きたいこと」「見たいこと」「体験したいこと」それぞれをまとめさせておくとともに、名人との打ち合わせで、子どもの願いや思いを伝え、活動の目的や内容を明確にした。
- 探検で学んだことのまとめ方について、様々な表現の仕方（新聞、模造紙、紙芝居、劇等）があることを紹介し、グループごとに自分たちの思いが伝えやすい方法を選ばせ、主体的な活動になるようにした。
- それぞれのグループのまとめの発表内容について、伝えたいことは3つまでとし、自分たちの伝えたいことが焦点化されるようにした。



### 3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）

- 1学期の町探検のまとめでは、能義の地域について「田んぼや畑、山など自然がたくさんある。」「どの町内にも川が流れていて、生き物がたくさんいる。」「季節の果物、花がいっぱい。」などが挙がり、地域の自然環境に目が向けられ、親しみをもつことができた。
- 2学期の地域の知識や技術をもった名人たちとの交流では、地域には優れた技術や知識をもった人がいることや有名で歴史のある神社があること、自分たちの生活とつながっていることなどに気付くことができた。
- 地域の紹介ビデオづくりでは、自分たちが住む地域のよさをより多くの人に知ってもらいたいと、地域のことを自分事と捉え、子どもたちの思いや願いをもって意欲的に活動に取り組むことができた。

## 特色あるふるさと教育事例

学校名	安来市立比田小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	ふるさと教育の視点
5・6	総合的な学習の時間	比田の未来を考えよう ～2020えーひだkidsプロジェクト～	地域課題の解決に向け、「自分にできること」を実践していこうとする態度や地域への誇りと愛着を育てる。
<p><b>1 特色ある取組の概要</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>えーひだカンパニーの地域ビジョンを聞き、自分たちにできることを考える（5年生：比田地域ビジョンの実現をめざした設立の願いや思いについて）</li> <li>カンパニーの方からえーひだkids任命証をもらい、活動計画を立てる（えーひだ市場PRプロジェクト、芝桜植栽活動、地域防災学習）</li> <li>永田地区の芝桜植栽活動について聞き、活動計画を立てる（芽摘み、苗箱植え、東比田地区芝桜植栽、比田小アート文字による校庭斜面芝桜植栽）</li> <li>えーひだ市場のコンセプトや課題について聞き、PRプロジェクトの活動計画を立てる（えーひだ市場見学・聞き取り調査、PR動画撮影、情報科学高校との連携による動画編集）</li> <li>比田っ子フェスタでの「えーひだkidsプロジェクト2020よりよい未来に向かって」学習発表（保護者への取組情報発信）</li> <li>えーひだカンパニー防災担当の方の話を聞き、安全・安心なまちづくりについて考える（小さな拠点づくり事業との連携）</li> <li>比田地域づくりサミット（「えーひだカンパニー株主総会」）での取組発表</li> <li>自分の成長についての振り返り</li> </ol> <p><b>2 各校のふるさと教育のねらいを達成するための授業（活動）のポイント（工夫）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ふるさとの「ひと・もの・こと」との関わり <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の方と共に、ふるさと比田のためになることを実践する</li> </ul> </li> <li>つながりを意識した系統性・発展性のあるふるさと教育の展開 <ul style="list-style-type: none"> <li>活動の過程で、主体的に考え、みんなの思いや力を集結していく</li> <li>地域の一員として役に立てたという大きな満足感や成就感を醸成する</li> </ul> </li> </ol> <p><b>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本活動に対して、たくさんの地域の方が関わってくださり、「比田を元気にしたい」という地域の方の思いを子どもたちは肌で感じる事ができた。自分たちの住む地域で活躍している方々と交流し、学び合う中で、地域の方の思いや願い、生き方に触れることを通して、ふるさと比田への誇りと愛着を育てていく事ができた。</li> <li>子どもたちにとって身近な存在である地域の株式会社と連携し、地域課題の解決に向け自分たちにできることを考え、実践していく活動を仕組むことにより、子どもたちはより主体的に取り組む事ができた。また、活動を通して、自分の将来について考え、自分も地域の発展に大きくかかわることができるという自信や意欲につなげることができた。</li> </ul>			





## 特色あるふるさと教育事例

学校名	安来市立第二中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	ふるさと教育の視点
2	総合的な学習の時間 体育	修学旅行で安来をPRしよう。	安来市の紹介やPRを通し、ふるさとに誇りを持つと同時に、安来市の今後の課題について気づく。

### 1 特色ある取組の概要

総合的な学習の時間を利用して、足立美術館、安来節演芸館、和鋼博物館を訪問し、安来の観光地を紹介するパンフレットやクイズを作成し、体育の時間に練習した安来節の男踊り、女踊り、銭太鼓と一緒に、修学旅行で披露した。今年度は、県内の大田市の神楽団とお互いの地域の伝統芸能を披露しあい、感染症予防対策とり、内容を工夫しながら交流を行った。

### 2 各校のふるさと教育のねらいを達成するための授業（活動）のポイント（工夫）

安来節の練習については体育の時間に行っている。安来節保存会から5人の講師を招き、7時間にわたって踊りと銭太鼓の指導を受けている。生徒を男踊り、女踊り、銭太鼓の3つのパートに分け、それぞれに講師の方と教員がつき短い時間でも完成度が上がる工夫をしている。また、5人の講師の方は、安来節保存会の中では若い方たちで、学習の初めに「安来節をするきっかけ」「安来節をしていてよかったこと」「安来二中の生徒に期待すること」など安来節に対する思いなどを話してもらった。

### 3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）

5人の講師の方に安来節に対する思いを話してもらったり生徒に積極的に関わってもらったりする中で、生徒の安来節に取り組む姿勢がより意欲的になった。安来節を通して地域の方とふれあい、より一層、郷土の伝統芸能である安来節を誇りに思い、守っていこうという意識が高まったように思う。

